

シンポジウム14

病理細胞1 「ゲノム検査を目的とした組織の取り扱いー固定、薄切や結果に基づく考察および多施設調査報告ー」

ゲノム検査を目的とした組織の取り扱い

ー固定、薄切や結果に基づく考察および多施設調査報告ー

◎徳満 貴子¹⁾

宮崎大学医学部附属病院¹⁾

①施設概要と組織・細胞検体数

宮崎大学医学部附属病院は、総病床数632床、「特定機能病院」、「がん診療連携拠点病院」として指定されている。病理診断科・病理部は2020年にISO15189の認定を取得し、2021年度の年間件数は、病理組織6846件、細胞診が4231件である。

②固定条件について

固定液は、生検材料および手術材料すべて10%中性緩衝ホルマリンを使用し、院内で使用するホルマリンは2017年よりすべて病理部が管理している。生検材料は生検採取日翌日に受付、検体処理を行っている。手術材料については、遺伝子検査が考えられる検体は、固定開始時間～終了時間を依頼書に記載、病理部で追加固定が必要な場合は固定終了時間記載をしている。生検検体、手術検体において遺伝子検査を実施する可能性があるものは、休日前の検査や手術は避けてもらうようお願いしている。

③遺伝子検査について

全領域で遺伝子検査を行っているが、外部委託検査所に依頼しており未染スライド作製を行っている。昨年度の実績は、MSI 検査が最も多く、オンコマイン DxTarget Test マルチ研究用46 遺伝子検査、肺癌 ALK 遺伝子、EGFR 変異解析、ROS1 融合遺伝子の順に多い。がんゲノム医療で実施しているパネル遺伝子検査は FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル25件、NCC オンコパネル8件である。

④不適正に対する対応

未染スライドの依頼は病理医が腫瘍量不足と判断した場合、診療科に連絡し追加の検体採取を促している。遺伝子検査項目の薄切は項目によってマーキングの有無やHE 標本が必要か否かなどあるため技師は項目の標本作製条件を確認している。薄切では、検体ごとに水槽の交換、ミクロトームおよび周辺の清掃、グローブの着用などコンタミを防いでいる。また、硬組織での脱灰は遺伝子検査を行う可能性がある場合は EDTA を用いるなどしている。